

令和7年度 第2回宇和島市地域公共交通活性化協議会

議 事 要 旨

日時 令和8年1月22日（木） 10時30分～11時30分

場所 宇和島市役所 801会議室

出席 （委員） 西本委員、宮本委員、浅野委員、松浦委員、酒井委員、本田委員、大内委員、松本委員、山本委員、河原委員、越智委員（代理）、窪委員、近藤委員、榎委員（代理）、山本委員（順不同、敬称略）

（オブザーバー） 愛媛県南予地方局地域産業振興部地域政策課 末光課長

（外部事業者） キヤノンビズアテンダ株式会社（CBA）、
イツモスマイルデジタルソリューションズ株式会社（イツモDS）

（事務局） 宇和島市企画課：井亀、末廣、小島、田村、大塚

吉田支所：浅井、井東 三間支所：赤松 津島支所：山田、清家

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

（1）協議事項

○議案第1号 令和7年 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）

（事務局） （資料1に基づき、議案第1号の内容について説明。）

（委員） 津島地区にもコミュニティバスもあるため、津島地区の実績も資料に掲載すれば路線全体の比較がしやすくなると思う。

それと、別当線が計画1,170回に対して、1,104回の実績があるのであれば、定時定路線型をデマンド型にしてもいいのではないかと思う。

（事務局） 津島地区のコミュニティバスについては、愛媛県の補助金を活用しているため本議題の資料には掲載していないが、来年度以降、比較対象として掲載することを検討する。

デマンド化については、現在市内全体で行っている調査結果を基に考えていく。

※議案第1号は、賛成の拍手多数により承認。

○議案第2号 宇和島市地域公共交通計画に係る事業の取組状況について

(事務局) (資料2に基づき、議案第2号の内容について説明。)

(委員) バスの待合所整備について、補助率はどのくらいか。また、宮の浦停留所の待合所整備には、どの程度の事業費と期間を要したか。

(事務局) 補助率は1/4、上限30万。宮の浦については、約21万1千円の総事業費で、木造ということもあり約1ヶ月程度で完成している。

※議案第2号は、賛成の拍手多数により承認。

○議案第3号 戸島地区地域モビリティ事業の運賃改定について

(事務局) (資料3に基づき、議案第3号の内容について説明。)

(委員) 船の着く本浦から、各地区への距離はどの程度か。

(事務局) 本浦から最も遠い郡地区までが3.8km、小内浦地区までが1.6km、美砂子までが0.8kmとなっている。

(委員) モビリティ事業の経費については、財源は運賃収入のみか。それとも、ほかの財源があるのか。

(事務局) 車両については、市から貸与し、点検や修繕に係る費用も市から支出している。燃料費や報酬は運賃収入から支出しており、協議会の予算などから支出しているものはない。

※議案第3号は、賛成の拍手多数により承認。

○議案第4号 宇和島市地域公共交通活性化協議会の委員追加及び規約の改正について

(事務局) (資料4に基づき、議案第4号の内容について説明。)

(委員) 追加委員の候補はいるのか。

(事務局) 県内大学で想定している先生はいる。まちづくりなどの分野を研究し、また、他の交通会議の委員も歴任しており、多角的視点からご意見をいただけると思う。

※議案第4号は、賛成の拍手多数により承認。

(2) 報告事項

・地域公共交通リ・デザイン検討調査業務について

(事務局、CBA) (資料に基づき、業務受託先であるキャノンビズアテンダ株式会社より地域公共交通リ・デザイン検討調査業務について説明。)

(委員) 吉田の社会福祉協議会から、このアンケート結果を踏まえて今後のことを考えたいと言われているが、結果がまとめられるのはいつ頃か。

(CBA) 1/30をアンケートの締切としている。その後、8営業日程度あれば、市に対しては、ある程度の結果や傾向を提供ができると想定している。その後、修正等もあるため期間が前後する可能性はある。

(委員) 地区ごと意見交換会について、自治会長宛てに案内が来ていたが、内容とし

ては、この調査の報告なのか、調査をよりよくするための意見を聞く場なのか。

(CBA) 意見を聞く場として予定している。また、地域住民からもお声を聞いていると思うので、そういった意見も聞ければと思っている。

(委員) ものすごくいい取り組みだと思っている。

リ・デザイン調査を基に計画期間途中の公共交通計画を見直すのか。

(事務局) 本業務については、現行の計画に追記をする予定のため、見直しというよりは更新になる見込み。

(委員) これまで高齢者視点の公共交通再編などはあったが、子どもや保護者の視点も取り入れていただきたい。学校の再編や部活の地域移行で子ども移動が増えてくる中で、学校から各拠点へを循環するような公共交通があれば、子どもたちが利用し保護者の送迎も減る。また、子どもの頃から公共交通を利用してれば、それが当たり前になって将来的には利用者が増えるのではないかと思う。

(事務局) 統廃合の際に、教育総務課主体で統廃合準備会を開催しており、議題の中で、通学のところについては保護者の方からご指摘をいただいている。宇和島自動車においても、人材確保が難しいと伺っている中で、限られた人材を通学の時間に充てていただいている。

地域移行等で新たな移動手段を確保が必要になっても、車両があっても運転する人はいないという課題も出てくると思う。その点については、国において官民共創という観点で法改正等がされている。すぐには難しいかもしれないが、市の実情と擦り合わせながら、交通サービスの見直しを検討していきたいと思う。

(委員) 先日、宇和島自動車の路線バスに乗車した際に運賃や路線を地図検索した際に、非常に便利だと感じた。JR やコミュニティバスを含めて、最適なルートを検索できるようになったらいいと思う。

(事務局) 官民連携による運行や配車管理というところには、CBA 様やイツモ DS 様の助言をいただきながら、検討していくことができればと思っている。

4 閉会